



中野市産地・観光PR用  
シンボルマーク

## 第1回 中野市 若者ワークショップ 次第

期日 平成26年11月19日(水)  
時間 午後6時30分  
会場 中野市民会館 41号会議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 概要説明（ワークショップとは？）について
- 5 振り返りと展望について
- 6 中野市の概要について
- 7 その他

次回：平成26年12月10日（水） 午後6時30分 市民会館 41号会議室

- 8 閉 会

### 【 資 料 】

- 若者ワークショップ実施要領
- 委員名簿
- スライド資料
- 第2次中野市総合計画の策定に向けた基礎調査（人口動向等資料）
- ワークショップ入門（冊子）
- 中野市総合計画・後期基本計画（概要版）
- アンケート用紙

信越自然郷

千年風土の豊穡の地



中野市産地・観光PR用  
シンボルマーク

メ モ


## 中野市 若者ワークショップ実施要領

### 1. 目的

第2次中野市総合計画の策定過程において、市民と市職員が「ふるさと中野市を再認識」し、「課題対応」と「未来志向」の両面からプロジェクト提案を得ることを目的に若者ワークショップを実施します。

また、将来を担う若者を対象とすることで、地域のリーダーとして活動して行く人材育成を図ることも目的とします。

### 2. 名称

中野市若者ワークショップ

### 3. 参加者及び人数等

区分	人数	備考
①市民	14名程度	平成26年10月1現在で満20歳以上40歳未満 原則公募とする
②高校生	6名	中野立志館高等学校、中野市西高等学校の各3名
③市職員	10名	満35歳以下の職員から公募及び指名
計	30名程度	

### 4. 運営方針

- ① 参加者の報酬は無報酬とします。
- ② ワークショップでは、第2次中野市総合計画策定に向けて、地域の課題や市の将来像などについての意見交換、議論、検討を行い、プロジェクト提案発表を行います。
- ③ 結果はホームページ上で公開します。
- ④ 検討内容、プロジェクト提案などは、総合計画策定に向けた基礎資料として活用します。

### 5. 実施時期と回数

実施時期：平成26年11月から平成27年2月にかけて実施。

実施回数：全5回。(最終回は発表会)

※日程は、6. 内容の表のとおり

## 6. 内 容 (予定)

回	月日	内 容	備考
第1回	11月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーション</li> <li>・市長挨拶</li> <li>・自己紹介</li> <li>・ワークショップとは？ルールと流れ</li> <li>・グループや役割分担づくり</li> </ul>	
第2回	12月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふるさと中野を再認識しよう</li> <li>・どんどん出そう！ふるさとの強みと弱み 良いところ・悪いところ(=課題)の抽出と カテゴリ分け【KJ法による整理】</li> <li>●市民アンケート結果の意見交換、議論、検討</li> </ul>	
第3回	1月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討テーマ設定</li> <li>・総合計画施策体系からのテーマ設定</li> <li>●プロジェクト提案検討シートの作成①</li> <li>・検討テーマの強みと弱みの整理 (課題整理)</li> </ul>	
第4回	1月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクト提案検討シートの作成②</li> <li>・課題対応の検討</li> <li>・未来志向の検討</li> <li>・プロジェクト提案検討シートのまとめ</li> </ul>	
第5回	2月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクト提案発表会</li> <li>・プロジェクト提案検討シートに基づき発表 (各グループ15分程度)</li> <li>・市長の講評</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事者及び全 部長の出席</li> <li>・総合計画審議 会委員の出席</li> </ul>

■時間 18:30~20:00 (第5回のみ17:30~19:00)

■会場 市民会館41号会議室

## 7. その他

ファシリテータ(進行役)については、支援業務委託業者による。

中野市 若者ワークショップ 委員名簿

H26. 11. 17 現在

No	区 分	氏 名	備 考
1	市民公募	徳 竹 楓	
2		島 田 真 紀	
3		岩 月 光 将	
4		清 野 友 之	
5		川 島 良 平	
6		久 米 菜々子	
7		金 子 正	
8		関 晋 司	
9		堀 川 毅	
10		小 林 万 紀	
11		高 木 涼	
12		保 科 陽 子	
13	高校生	依 田 歩 美	
14		鈴 木 瑞 花	
15		栗 林 大 輔	
16		田 中 大 地	
17		金 澤 聡 哉	
18		伊 村 優 那	
19	市職員	長 嶺 健 司	
20		武 田 有 希	
21		有 賀 惠 子	
22		宮 川 美 聡	
23		依 田 博 香	
24		宮 崎 絢 也	
25		鈴 木 章 彦	
26		蟻 川 涉	
27		神 田 大 志	
28		小 林 光 代	

中野市の未来・・・  
ともに考え、行動してみよう！



## 中野市 若者ワークショップ

第1回 資料 平成26年11月19日



## 本日のプログラム

項目	ひとこと
・市長あいさつ	
・出席者の自己紹介	お互い、初めてお目にかかる方も多いかと思います。 順番に、簡単な自己紹介をお願いします。 (氏名、年齢、所属、抱負 など)
・ワークショップとは？ ～概要説明	
・振り返りと展望	始まったばかりですが、参加してみた感想はいかがですか？ また、要望や、やってみたいこと等ありましたら、お手元のシートにご記入ください。合わせて、簡単なアンケートにお答えいただき、終了後、シートを回収させていただきます。
・中野市の概要	

### ■本日の資料

- ・若者ワークショップ実施要領
- ・委員名簿
- ・スライド資料
- ・第2次中野市総合計画の策定に向けた基礎調査(人口動向等資料)
- ・ワークショップ入門(冊子)
- ・中野市総合計画・後期基本計画(概要版)
- ・アンケート用紙

## ア. ワークショップってなあに？

### ○みんなで考え、実践する・・・「体験型 話し合いの場」

「会議」と言えば、特定の人が話を進めていく受け身なイメージもありますが、ワークショップでは一人ひとりが自ら参加し、みんなで意見を出し合います。

さらに、多様な考えや意見があることを認識したり、それらを整理する過程そのものが、「体験」としての大切な機会ともなるものです。



### ○知恵や力を合わせて、より良い方向へ

多様な意見交換は、相互作用によってさまざまな広がりをもたらします。疑似体験的な限られた時間・空間ではありますが、より良い問題解決や提案をグループでめざします。

2

## イ. ワークショップって、なんのため？

### ○まちづくりの新しい計画を作ろうとしています

中野市役所では現在、まちづくりの全体的なプランである、「第2次中野市総合計画」を作ろうとしています。まちづくりにはさまざまな分野があり、計画づくりにあたっては、多くの方々から、さまざまなご意見をうかがうことが非常に大切です。



### ○市民と行政が、力を合わせて取り組んでいくために

アンケートやインタビューなど、市民のご意見をうかがうにはさまざまな方法がありますが、「市民＝言う人」「行政＝対応する人」では、十分なまちづくりを進めることができません。とりわけ最近では、「市民参加」「市民と行政の協働」など、市民が積極的にまちづくりに参画・活躍していくことも求められています。

こうしたことから、市民のみなさんが自ら考えたり、グループで解決の道筋を探るなど、まちづくりのシミュレーションにもつながる一つの機会例として、ワークショップを実施するものです。まちづくりを「分かち合い考える」、時代に向けて。

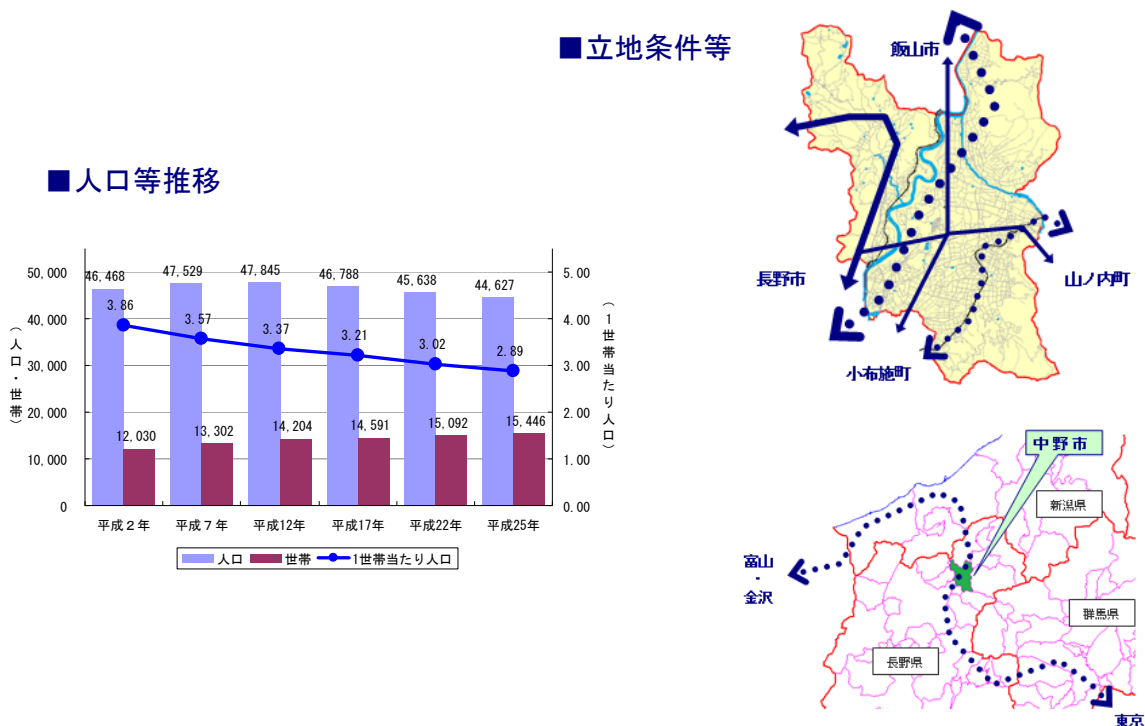
3

## ウ. 全体プログラム(予定)

回	月日(曜)	内容	ひとこと
1	2014年 11月19日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オープニング&amp;オリエンテーション</li> <li>・市長あいさつ</li> <li>・出席者の自己紹介</li> <li>・ワークショップとは？～概要説明</li> <li>・振り返りと展望</li> <li>・中野市の概要</li> </ul>	はじめまして！まずはアイドリング、余計な緊張を解きほぐしましょう。
2	12月10日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふるさと中野を再認識しよう</li> <li>・中野市を取り巻く概況報告～統計データ等から</li> <li>・市民意識の動向～市民アンケートから</li> <li>●いよいよ、やってみよう！「中野市の現在を見つめて」</li> <li>・グループ分け(リーダー・書記の互選)</li> <li>・どんどん出そう！ふるさとの強みと弱み&lt;ワーク&gt;</li> </ul>	ふるさとの現在(いま)に、データ等から触れてみましょう。そしていよいよ、行動開始です！
3	2015年 1月14日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題対応と未来志向！「どんな中野市が良いのでしょうか」</li> <li>・前回ワークを踏まえた課題対応と未来志向の検討&lt;ワーク&gt;</li> <li>・プロジェクトの検討&lt;ワーク&gt;</li> </ul>	現状からの進むべき方向・目標を考えてみませんか？
4	1月28日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これからの取り組みを考える「必要なこと、やりたいこと」</li> <li>・作業のまとめ&lt;ワーク&gt;</li> <li>・プロジェクト提案検討シートの作成&lt;ワーク&gt;</li> </ul>	目標に近づくための取り組みはどうしたら？
5	2月10日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクト提案発表会</li> <li>・グループ別発表</li> <li>・市長の講評</li> </ul>	成果を発表しましょう！堂々と、です！！

4

## (参考) 中野市の概況イメージ



5



お疲れ様でした。

次回は12月10日（水）です。  
会場、時間は、本日と同じです。

～次回も、よろしくお願ひします～



第2次中野市総合計画の策定に向けた

# 基礎調査

(人口動向等資料)

平成26年11月

中野市



# 第 1 章 調査の概要

## 1. 調査の目的

---

本調査は、中野市総合計画（平成19 年度～平成28 年度）の期間を1 年前倒しし、平成28 年度から平成37年度を計画期間（10年間）とする第2次総合計画を策定するにあたり、その前提となる市に関連した諸情報を整理し、データ作成及び分析等、計画の見直し検討を進めていくための基礎的な調査として実施するものです。

## 第2章 市の概況

### 1. 市の位置

#### (1) 広域的な位置

本市は、長野県の北東部に位置し、北は飯山市、木島平村、南は小布施町、高山村、東は山ノ内町、西は長野市、信濃町、飯綱町の2市、4町、2村に接しています。

市役所の位置は、東経 138 度 22 分、北緯 36 度 44 分、標高 367 m にあります。また、県都長野市からは、長野電鉄で長野駅から信州中野駅まで、J R 飯山線で長野駅から替佐駅まで、それぞれ約 30 分程度で結ばれています。

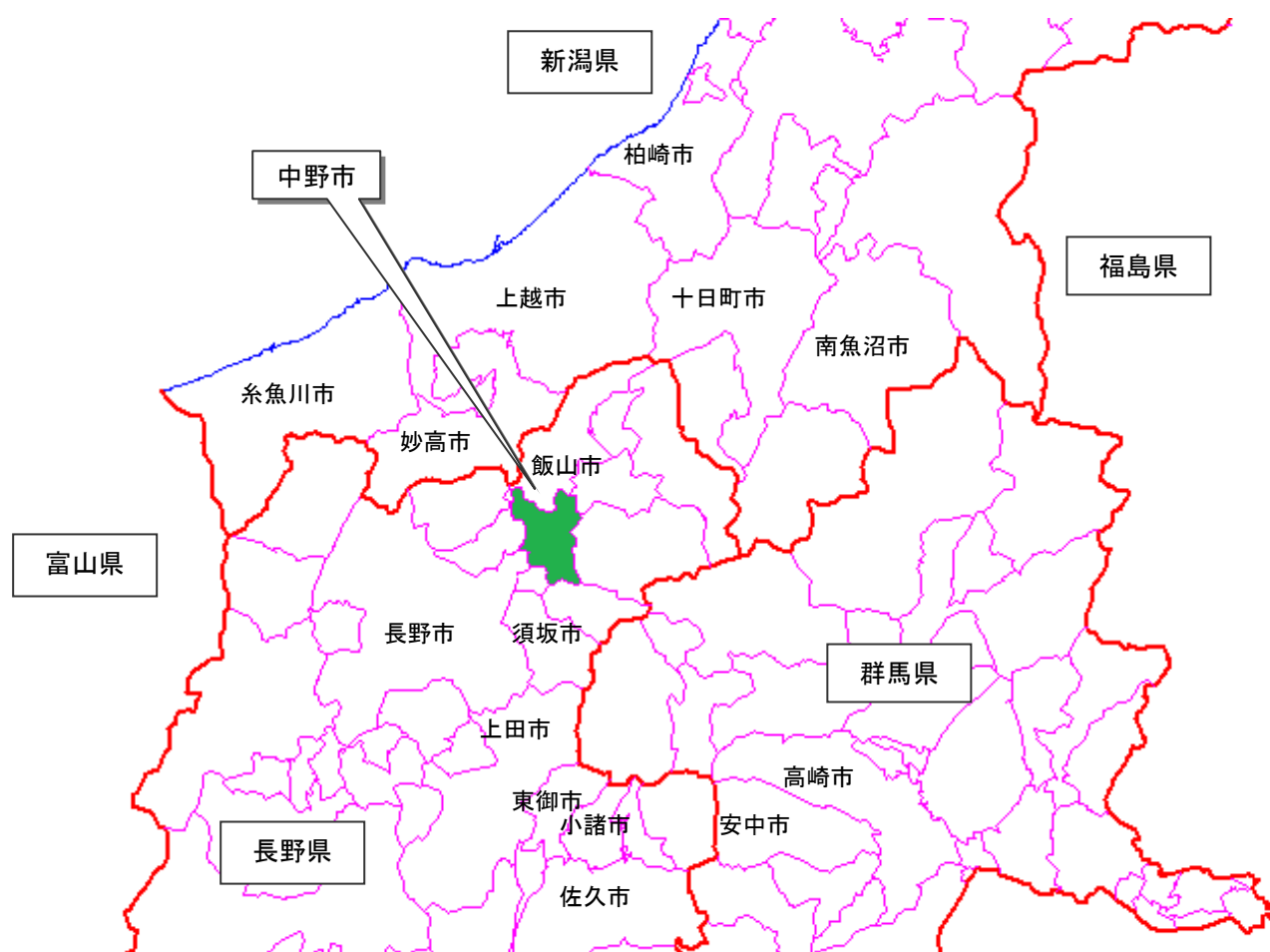
市の東西は約 11 k m、南北約 16 k m で、南北に長く、面積は 112.06 k m<sup>2</sup> となっています。

図表一 長野県における位置  
(名称は市及び近隣自治体のみ表示)



国土軸上では、北陸新幹線が長野から金沢まで延伸されることに伴い、高速自動車交通網と合わせ、首都圏と北陸を結ぶ広域交通条件が強化されることとなり、これまで以上に隣接県や首都圏、北陸一帯の時間距離が短縮され、本市の立地特性もさらに高まることが期待されます。

図表一 広域的な位置  
(名称は市のみ表示)



## (2) 市域の概況

本市は、市のほぼ中央を流れる千曲川をはさんで、北東に高社山（1351.5m）、北西に斑尾山（1381.8m）の二つの象徴的な山を配しています。この二つの山裾や東部の山地を背景とする地域、千曲川がつくる河岸段丘や夜間瀬川が形成した扇状地に集落がつくられ、中野扇状地には市街地が広がっています。

高社山は、独立してそびえる美しい山で、「たかやしろ」と呼び親しまれ、古くから信仰の対象にもなっています。その裾野を夜間瀬川が「十三崖」を形成して北へ流れ、千曲川に注いでいます。中野扇状地の南には延徳沖低地が続き、さらに西南の善光寺平に連なっています。

また、斑尾山は、手のひらを広げたような5つの尾根からなっており、この間に4つの谷と多くの沢をもち、地勢は起伏に富み複雑で、これらの水を集めた班川は、斑尾川と合流し、千曲川に注いでいます。

東方には、上信越高原国立公園志賀高原が望まれ、西方には北信五岳が一望できる景勝に恵まれた地となっています。

さらに、市内には上信越自動車道信州中野インターチェンジと豊田飯山インターチェンジの2つのインターチェンジがあり、高速交通網の整備により産業経済圏域やレジャー圏域が拡大し、北信州の中心都市として重要な位置を占めています。

図表一 市域の概況



### (3) 市のあゆみ

本市における歴史のあけぼのは、少なくとも約2万年前までさかのぼります。平成6(1994)年、高丘地区の沢田鍋土遺跡から、県内で最も古い段階のものと思われる石器群が発見されており、ナウマンゾウなどの大型動物を狩猟して暮らしていた旧石器時代の生活から本市の歴史は始まります。旧石器時代につづく、縄文、弥生、古墳時代と、先人の残した遺跡は、市内各所にみられます。

古代に入ると、中野氏、笠原氏の勅使牧が発達し、郷の形成を促進してきました。

鎌倉時代には、中野氏、笠原氏が活躍しますが、源氏系高梨氏の北方進出により、平家一族の笠原氏は滅び、時代は高梨氏に移ります。高梨氏は、館を構えて城下町を形成して栄え、現在の本市の基盤をつくりました。やがて、戦国時代に入り武田信玄の信濃進攻による、上杉謙信との攻防の渦に高梨氏も巻き込まれていくこととなります。また、豊田地域においては、信玄の越後進攻の前線地として、今も城跡として残る替佐城が築かれました。

江戸時代に入ると、中野村には幕府の陣屋が置かれ、幕府領は次第に拡大されていき、江戸時代中期以後は、中野地域の大半が幕府領となりました。以降、政治、経済、文化、交通の中心となり、天領中野の名を高らしめてきました。また、豊田地域は、江戸時代を通じて飯山藩の領地となっており、新田開発や用水堰の開さくが盛んに行われ、今日の農業の基盤となりました。文化文政時代には、華やかな文化の花がひらき、この地方にも中央からの文化の流入が大きく浸透してきました。江戸から文人学者の来訪も多く、地元での地方文化を支えている人との交流により、文化が隆盛しました。

明治に入って、廃藩置県に伴い創設された伊那県の中野分局が中野村に置かれ、さらに明治3(1870)年には、伊那県から中野県が分れて、中野町に県庁が置かれました。当時の政情不安と経済の混乱は、大規模な中野騒動を引き起こすこととなり、県庁を焼失し、明治4(1871)年、中野県庁を善光寺に移転し長野県と改称するという太政官布告が発せられ、長野町に県庁が移されました。

このように北信州の中心として栄えてきたことは、人・物・情報を集め、豊かな自然ともあいまって、伝統や文化を育む風土を形成し、現在に至るまで、多くの文化人を輩出してきました。

明治22(1889)年に町村制の施行により、町村合併が行われ、昭和29(1954)年には中野町を中心に、近隣8か村が合併して中野市となり、また、昭和31(1956)年には豊井村と永田村が合併し、豊田村が発足しました。そして、平成17(2005)年4月1日に、中野市と豊田村が合併し、新市「中野市」として新たな歩みを始めました。

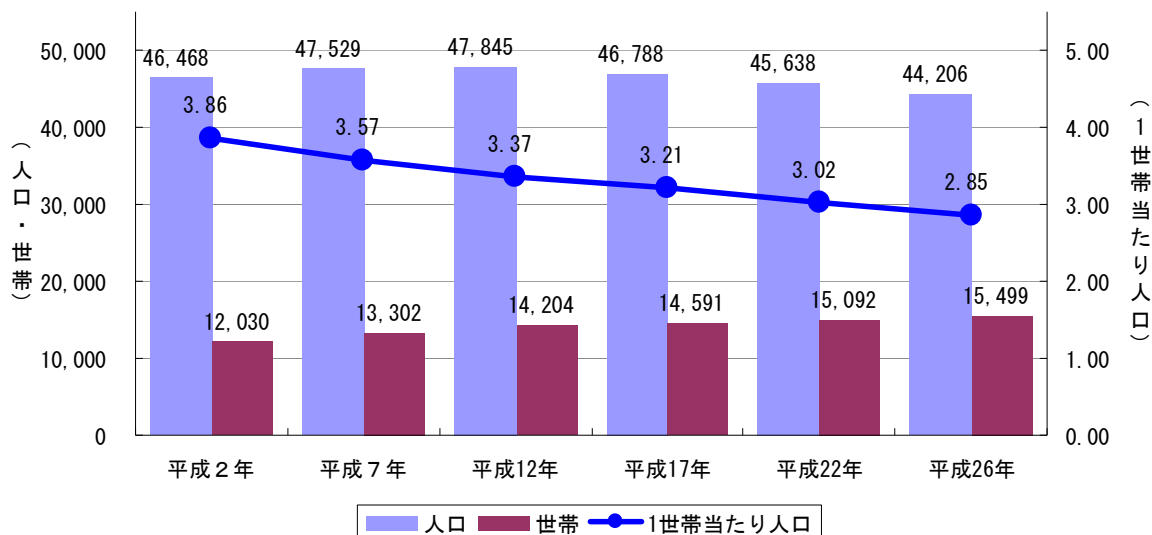


## 2. 人口・世帯

### (1) 人口・世帯の動向

本市の人口・世帯の動向を見ると、平成12年を境に減少に転じ、その後も減少傾向で推移しています。平成26年には44,206人となっています。一方、世帯数は一貫して増加傾向にあり、平成26年には15,499世帯となっています。1世帯当たり人口も減少傾向にあり、平成22年には、3.06人となっていますが、長野県全体の平均値2.71人に比べると、やや多い状況です。

○国勢調査による人口・世帯



		人口	世帯	1世帯 当たり 人口	面積 (k m <sup>2</sup> )	人口密度 (人/k m <sup>2</sup> )
中野市	平成2年	46,468	12,030	3.86	112.06	414.7
	平成7年	47,529	13,302	3.57		424.1
	平成12年	47,845	14,204	3.37		427.0
	平成17年	46,788	14,591	3.21		417.5
	平成22年	45,638	15,092	3.02		407.3
	平成26年	44,206	15,499	2.85		394.5
長野県	平成26年	2,108,765	812,963	2.59	13,562.23	155.5

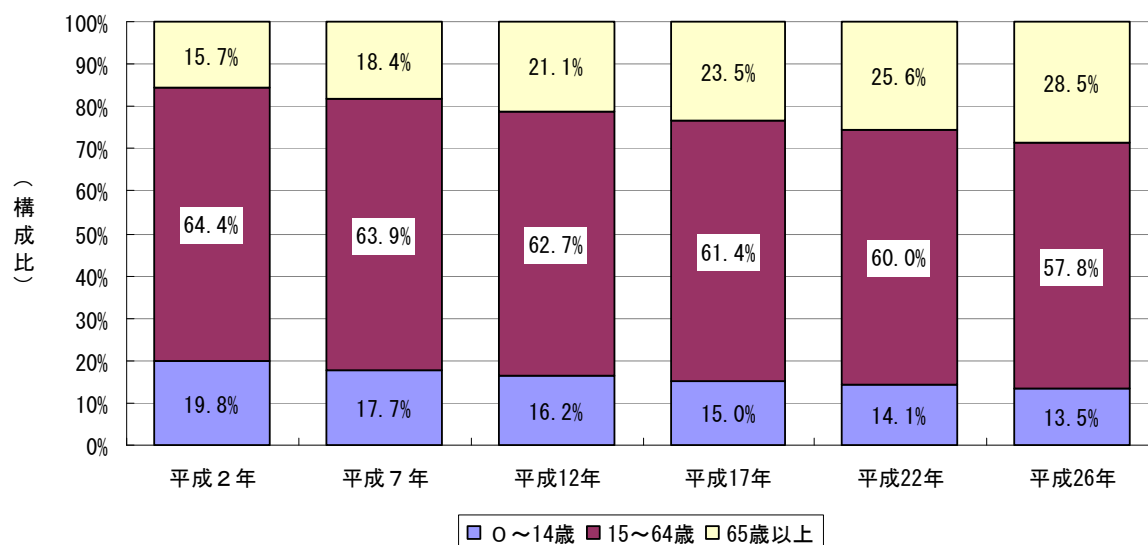
[各年10月1日現在] 資料：国勢調査(H2-22)、長野県毎月人口異動調査(H26)

## (2) 年齢別人口構成

人口の年齢別構成を見ると、0～14歳（年少人口）、及び15～64歳（生産年齢人口）の比率は減少傾向、65歳以上（高齢人口）の比率は増加傾向となっています。

また、長野県との比較では、おおむね同等の水準による比率構成となっています。

○年齢3区分別人口構成比

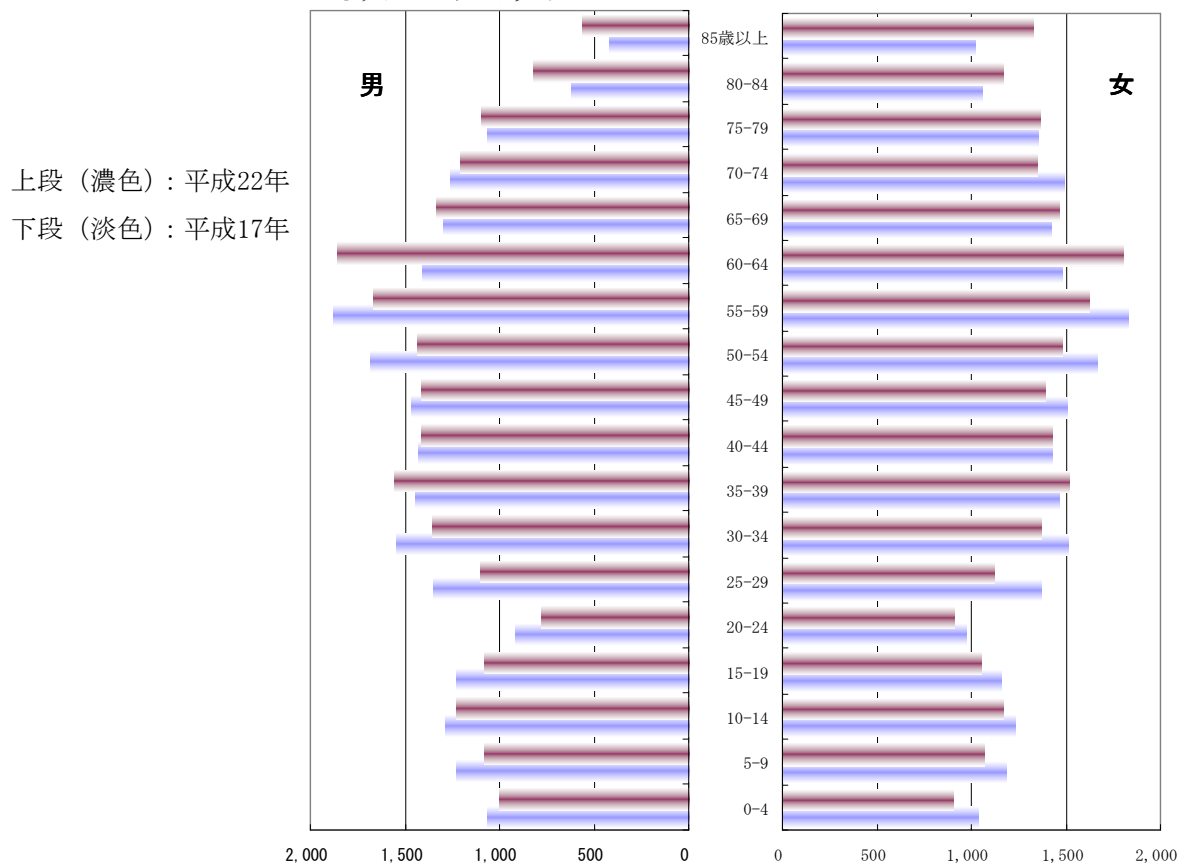


			総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
中野市	実数	平成2年	46,468	9,220	29,937	7,311
		平成7年	47,529	8,401	30,384	8,744
		平成12年	47,845	7,768	29,976	10,101
		平成17年	46,788	7,031	28,743	11,014
		平成22年	45,638	6,450	27,381	11,700
		平成26年	44,206	5,970	25,546	12,583
	構成比	平成2年	100%	19.8%	64.4%	15.7%
		平成7年	100%	17.7%	63.9%	18.4%
		平成12年	100%	16.2%	62.7%	21.1%
		平成17年	100%	15.0%	61.4%	23.5%
		平成22年	100%	14.1%	60.0%	25.6%
		平成26年	100%	13.5%	57.8%	28.5%
長野県	実数	平成26年	2,108,765	277,682	1,210,414	614,946
	構成比	平成26年	100%	13.2%	57.4%	29.2%

[各年10月1日現在] 資料：国勢調査(H2-22)、長野県毎月人口異動調査(H26)

男女別5歳階級別人口（人口ピラミッド）を見ると、平成22年値では、60～64歳層の人口が多くなっています。平成17年値と比較すると高齢化が進んでいる様子がうかがえ、こうした傾向は今後も続いていくものと想定されます。

○人口ピラミッド

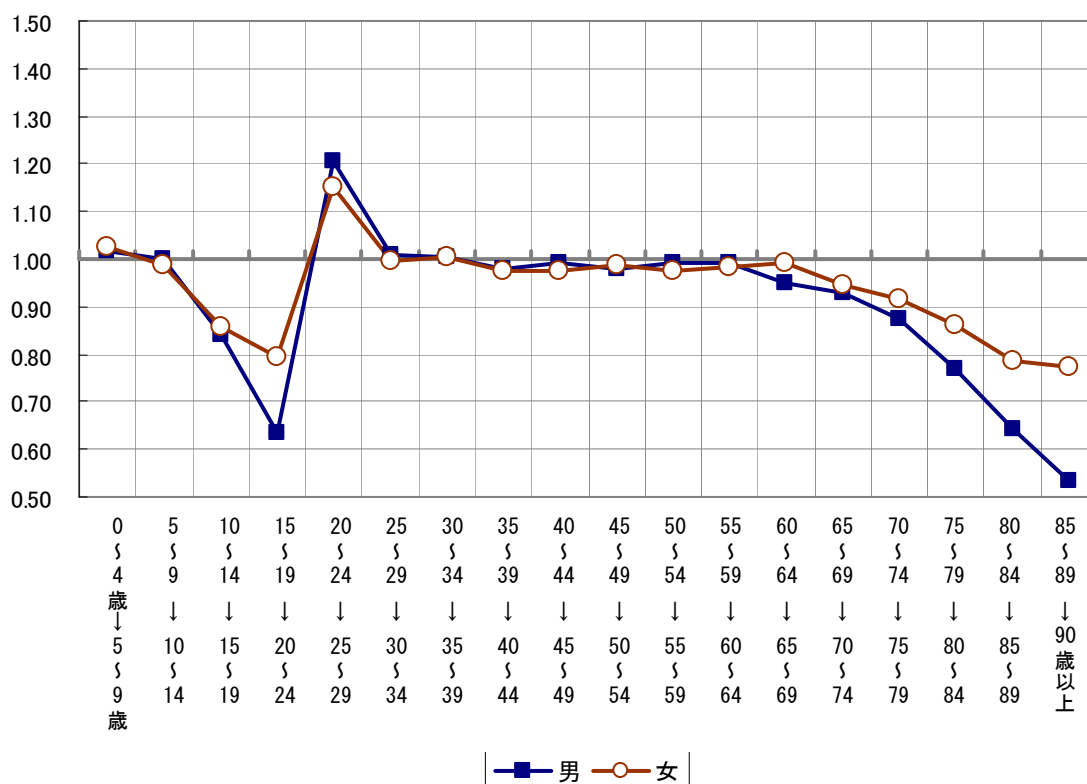


	平成 17 年			平成 22 年		
	総 数	男	女	総 数	男	女
0～4 歳	2,101	1,064	1,037	1,902	998	904
5～9 歳	2,412	1,226	1,186	2,149	1,084	1,065
10～14 歳	2,518	1,286	1,232	2,399	1,228	1,171
15～19 歳	2,380	1,228	1,152	2,134	1,080	1,054
20～24 歳	1,887	916	971	1,694	780	914
25～29 歳	2,719	1,346	1,373	2,223	1,106	1,117
30～34 歳	3,061	1,547	1,514	2,727	1,357	1,370
35～39 歳	2,915	1,448	1,467	3,071	1,552	1,519
40～44 歳	2,863	1,430	1,433	2,846	1,415	1,431
45～49 歳	2,971	1,470	1,501	2,814	1,418	1,396
50～54 歳	3,351	1,684	1,667	2,924	1,440	1,484
55～59 歳	3,708	1,878	1,830	3,290	1,667	1,623
60～64 歳	2,888	1,407	1,481	3,658	1,860	1,798
65～69 歳	2,716	1,296	1,420	2,805	1,336	1,469
70～74 歳	2,744	1,258	1,486	2,551	1,206	1,345
75～79 歳	2,428	1,069	1,359	2,462	1,100	1,362
80～84 歳	1,682	624	1,058	1,994	821	1,173
85 歳以上	1,444	419	1,025	1,888	560	1,328
年齢不詳	0	0	0	107	69	38
計	46,788	22,596	24,192	45,638	22,077	23,561

資料：国勢調査

男女別5歳階級別人口の増減状況（コーホート残存率）を見ると、15～19歳の世代を中心に、5年間で大幅な減少傾向（1を下回る）となっており、この世代における流出超過が男女とも特徴として表れています。一方、20～24歳層では、増加傾向（1を上回る）となっており、Uターン等での、比較的若年層、ファミリー層による市内居住需要も一定程度見られるものと考えられます。なお、高齢世代での減少は自然減の影響が主と考えられます。若い世代の流出抑制や、さらなる定着が人口面での主要な課題として捉えられます。

○男女別5歳階級別人口増減の状況（平成17年から22年にかけてのコーホート残存率）



	男	女
0～4歳 → 5～9歳	1.019	1.027
5～9歳 → 10～14歳	1.002	0.987
10～14歳 → 15～19歳	0.840	0.856
15～19歳 → 20～24歳	0.635	0.793
20～24歳 → 25～29歳	1.207	1.150
25～29歳 → 30～34歳	1.008	0.998
30～34歳 → 35～39歳	1.003	1.003
35～39歳 → 40～44歳	0.977	0.975
40～44歳 → 45～49歳	0.992	0.974
45～49歳 → 50～54歳	0.980	0.989
50～54歳 → 55～59歳	0.990	0.974
55～59歳 → 60～64歳	0.990	0.983
60～64歳 → 65～69歳	0.950	0.992
65～69歳 → 70～74歳	0.931	0.947
70～74歳 → 75～79歳	0.874	0.917
75～79歳 → 80～84歳	0.768	0.863
80～84歳 → 85～89歳	0.643	0.785
85～89歳 → 90歳以上	0.535	0.772

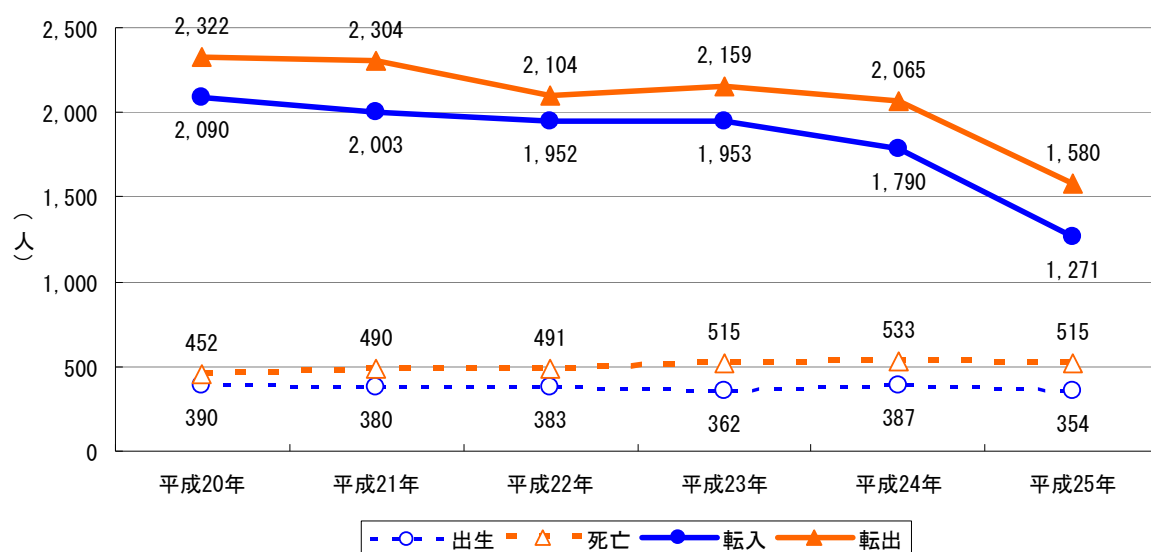
注) コーホート残存率 : 一定の年齢階級の人口の集団をコーホートといい、その大きさの一定期間の推移を経た後の割合をコーホート残存率という。数値1.000が増減なし、となる。

資料：国勢調査

### (3) 人口動態

本市の人口動態（出生・死亡・転入・転出）の推移を見ると、出生数が死亡数を下回る自然減、及び転入数が転出数を下回る社会減が続いており、これらが総じて人口減少につながっている状況となっています。

○人口動態（出生・死亡・転入・転出）



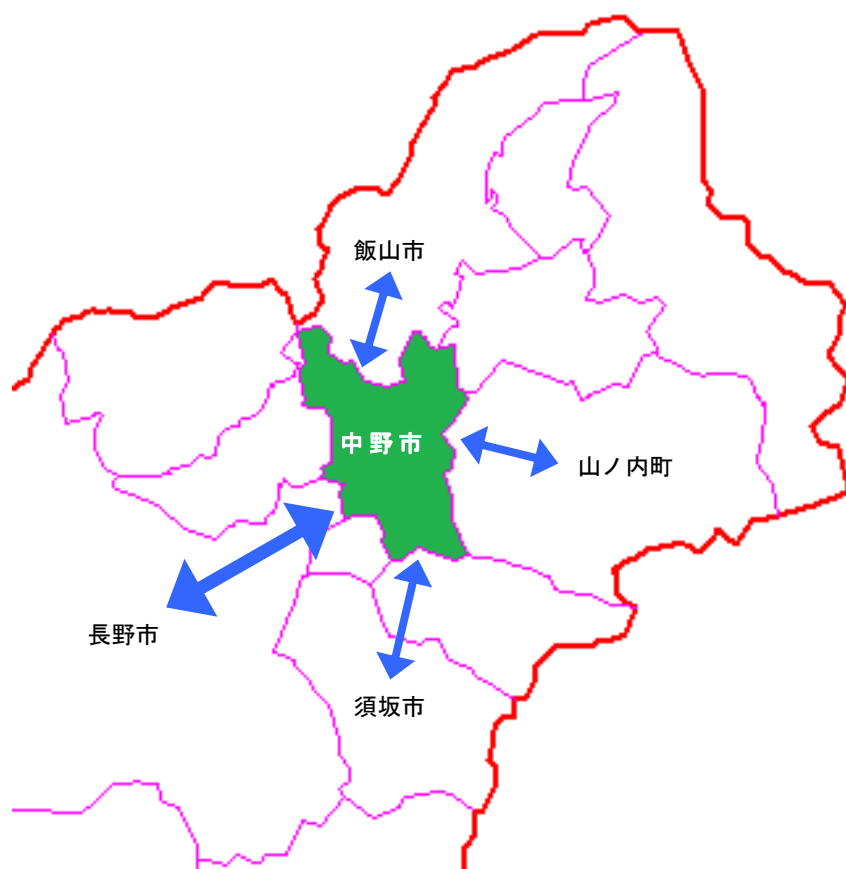
	自然 動態				社会 動態				その他	純増減	純増減率 (%)
	出生	死亡	自然増減	自然増減率 (%)	転入	転出	社会増減	社会増減率 (%)			
平成20年	390	452	△ 62	△ 0.13	2,090	2,322	△ 232	△ 0.50	7	△ 287	△ 0.62
平成21年	380	490	△ 110	△ 0.24	2,003	2,304	△ 301	△ 0.66	0	△ 411	△ 0.90
平成22年	383	491	△ 108	△ 0.24	1,952	2,104	△ 152	△ 0.33	△ 3	△ 263	△ 0.58
平成23年	362	515	△ 153	△ 0.34	1,953	2,159	△ 206	△ 0.46	6	△ 353	△ 0.79
平成24年	387	533	△ 146	△ 0.32	1,790	2,065	△ 275	△ 0.61	△ 37	△ 458	△ 1.02
平成25年	354	515	△ 161	△ 0.36	1,271	1,580	△ 309	△ 0.69	△ 12	△ 482	△ 1.08

資料：長野県毎月人口異動調査

#### (4) 通勤・通学流動

市内に常住する（市民）15歳以上の人のうち、市内で従業・通学するのは7割近くとなっています。市外の従業・通学先はほとんどが長野県内で、特に長野市との結びつきが強くなっています。また、市内で従業・通学する15歳以上の人の居住地については、市内居住者は7割近く、市外居住者が約3割となっています。市外からの従業・通学者の居住地として多いのは、長野市、須坂市、飯山市などとなっています。

○人口流動（通勤・通学）による結びつきが特に強い近隣自治体



(具体的な流動状況は次ページのとおり)

○通勤・通学の動き（15歳以上）

[実数]

常住地による従業・通学先（流出先）				従業地・通学地による常住地（流入元）			
	総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者		総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者
市内に常住する 就業者・通学者	27,264	25,256	2,008	市内で従業・通学 する人	26,810	25,016	1,794
市内で従業・通 学	18,481	17,513	968	市内に常住	18,481	17,513	968
自宅	6,487	6,487	-	自宅	6,487	6,487	-
自宅外	11,994	11,026	968	自宅外	11,994	11,026	968
市外で従業・通 学	8,485	7,464	1,021	市外に常住	7,841	7,059	782
県内	8,197	7,224	973	県内	7,754	6,973	781
長野市	3,888	3,368	520	長野市	2,019	1,929	90
須坂市	1,460	1,220	240	須坂市	1,190	959	231
飯山市	1,074	927	147	飯山市	1,179	1,131	48
小布施町	308	308	-	小布施町	637	528	109
高山村	108	108	-	高山村	223	180	43
山ノ内町	772	770	2	山ノ内町	1,534	1,310	224
木島平村	132	114	18	木島平村	313	296	17
野沢温泉村	42	42	-	野沢温泉村	103	100	3
飯綱町	116	112	4	飯綱町	283	275	8
県外	98	75	23	県外	87	86	1

[構成比]

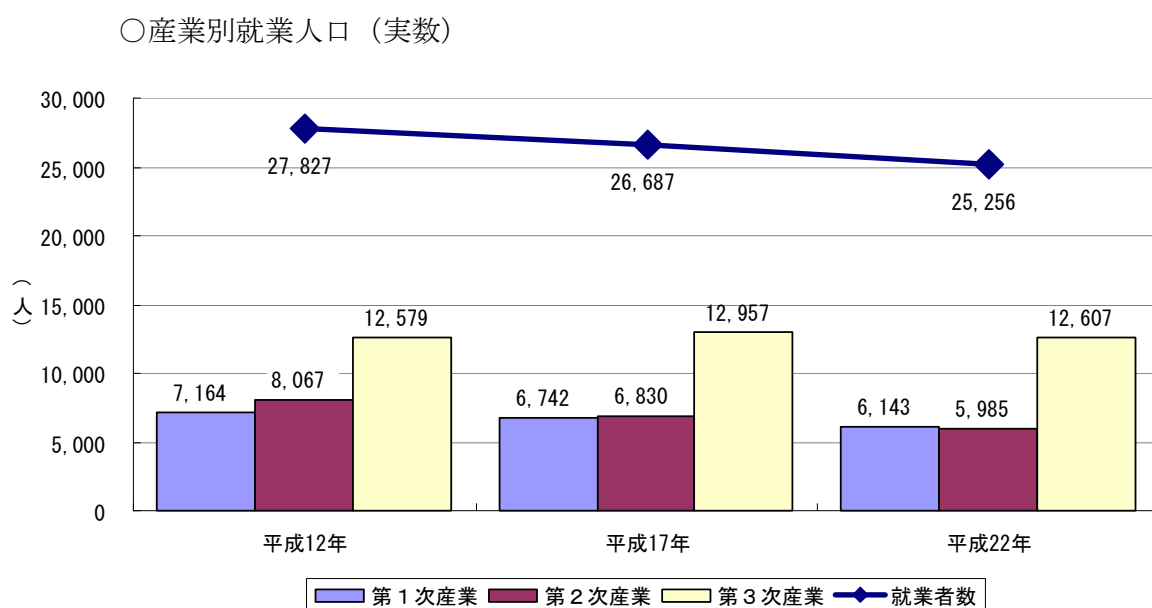
常住地による従業・通学先（流出先）				従業地・通学地による常住地（流入元）			
	総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者		総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者
市内に常住する 就業者・通学者	100.0%	100.0%	100.0%	市内で従業・通学 する人	100.0%	100.0%	100.0%
市内で従業・通 学	67.8%	69.3%	48.2%	市内に常住	68.9%	70.0%	54.0%
自宅	23.8%	25.7%	-	自宅	24.2%	25.9%	-
自宅外	44.0%	43.7%	48.2%	自宅外	44.7%	44.1%	54.0%
市外で従業・通 学	31.1%	29.6%	50.8%	市外に常住	29.2%	28.2%	43.6%
県内	30.1%	28.6%	48.5%	県内	28.9%	27.9%	43.5%
長野市	14.3%	13.3%	25.9%	長野市	7.5%	7.7%	5.0%
須坂市	5.4%	4.8%	12.0%	須坂市	4.4%	3.8%	12.9%
飯山市	3.9%	3.7%	7.3%	飯山市	4.4%	4.5%	2.7%
小布施町	1.1%	1.2%	-	小布施町	2.4%	2.1%	6.1%
高山村	0.4%	0.4%	-	高山村	0.8%	0.7%	2.4%
山ノ内町	2.8%	3.0%	0.1%	山ノ内町	5.7%	5.2%	12.5%
木島平村	0.5%	0.5%	0.9%	木島平村	1.2%	1.2%	0.9%
野沢温泉村	0.2%	0.2%	-	野沢温泉村	0.4%	0.4%	0.2%
飯綱町	0.4%	0.4%	0.2%	飯綱町	1.1%	1.1%	0.4%
県外	0.4%	0.3%	1.1%	県外	0.3%	0.3%	0.1%

注) 県内は100人以上の動きがある自治体を表示

資料：平成22年国勢調査

## (5) 産業別就業人口構成

国勢調査による産業別就業人口を見ると、就業者総数が減少傾向にあるなかで、農業等の第1次産業や、工業等の第2次産業が減少、商業・サービス業等の第3次産業はおおむね横ばい程度の推移となっています。



		総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
実数	平成12年	27,827	7,164	8,067	12,579
	平成17年	26,687	6,742	6,830	12,957
	平成22年	25,256	6,143	5,985	12,607
構成比	平成12年	100%	25.7%	29.0%	45.2%
	平成17年	100%	25.3%	25.6%	48.6%
	平成22年	100%	24.3%	23.7%	49.9%

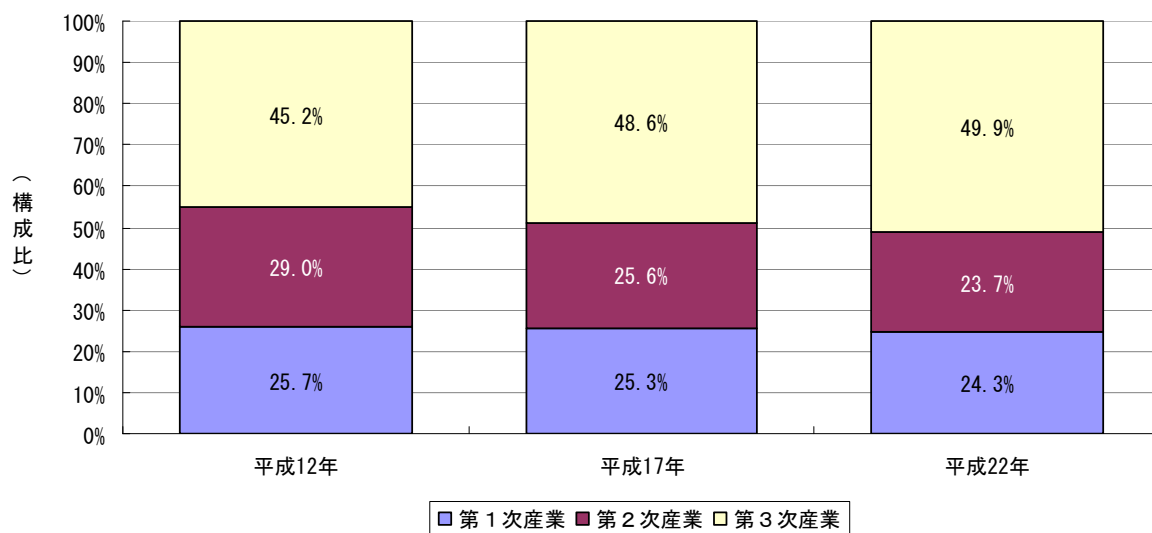
注) 総数には分類不能の産業を含む

資料：国勢調査



就業人口について、産業別の人口構成で見ると、実数の推移と同様、第1次、第2次産業が減少、第3次産業は微増傾向での推移となっており、平成22年には第3次産業が5割近くの構成比となっています。

○産業別就業人口（構成比）



資料：国勢調査

産業大分類別の就業人口については、農業、製造業、卸・小売業、医療・福祉といった分野が主な構成となっています。

○産業別就業人口（大分類別）

	実数	構成比
総数	25,256	100.0%
A 農業，林業	6,142	24.3%
(うち農業)	6,105	24.2%
B 漁業	1	0.0%
C 鉱業，採石業，砂利採取業	12	0.0%
D 建設業	2,080	8.2%
E 製造業	3,893	15.4%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	72	0.3%
G 情報通信業	236	0.9%
H 運輸業，郵便業	820	3.2%
I 卸売業，小売業	3,387	13.4%
J 金融業，保険業	330	1.3%
K 不動産業，物品賃貸業	144	0.6%
L 学術研究，専門・技術サービス業	361	1.4%
M 宿泊業，飲食サービス業	1,106	4.4%
N 生活関連サービス業，娯楽業	715	2.8%
O 教育，学習支援業	790	3.1%
P 医療，福祉	2,550	10.1%
Q 複合サービス事業	372	1.5%
R サービス業（他に分類されないもの）	1,053	4.2%
S 公務（他に分類されるものを除く）	671	2.7%
T 分類不能の産業	521	2.1%

資料：平成22年国勢調査

## ■ワークショップ出席者向けアンケート

[氏名 : \_\_\_\_\_ ]

問a あなたは、中野市に自分のまちとしての愛着を感じますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- |              |            |              |
|--------------|------------|--------------|
| 1. 感じている     | 2. やや感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり感じていない | 5. 感じていない  | 6. よくわからない   |

問b あなたにとって中野市はどの程度住み良いですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- |              |             |              |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. 住み良い      | 2. まあまあ住み良い | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり住み良くない | 5. 住みにくい    | 6. よくわからない   |

問c あなたは、中野市に住み続けたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 今住んでいるところに住み続けたい
2. 市内のどこかに住み続けたい
3. 市外に転居したい

問d 本日の感想、今後のワークショップへの要望、その他まちづくりのご意見等、何かありましたら、ご自由に記入ください。

問d あなたが、まちづくりのなかで興味や関心のある分野はどれですか。次の1から35までの番号から、あてはまるものを5つまで選んでください。

分野	番号	項目	分野	番号	項目
防災・協働	1	市民と連携した防災・危機管理対策の徹底	産業・経済	21	個性が輝く多彩な農業・林業の里づくり
	2	情報公開・情報共有のまちづくり		22	戦略的な観光・交流産業のブランドづくり
	3	公益を推進する多様な担い手の育成と連携促進		23	地域を担う地元商業・工業の振興
	4	自助自立の行財政運営と行政サービスの向上		24	新たな産業の創出と育成
	5	長期的展望に立った財政運営		25	活力を生む人材育成と雇用の安定
健康・福祉	6	人生の年代に応じた健康づくり	教育・文化	26	心豊かでたくましい子どもを育てる学校教育
	7	長寿時代の安定したシニア社会づくり		27	学びふれあう社会教育・生涯学習
	8	地域が支えあう福祉体制の確立		28	地域の歴史・文化の保存と活用
	9	人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくり		29	文化芸術の振興
	10	医療保険制度・介護保険制度の安定的運営		30	豊かな人間性を育むスポーツの振興
子育て	11	健やかに生み育てる環境づくり	都市基盤	31	都市像にふさわしい土地利用の推進
	12	子育て家庭を支援する仕組みづくり		32	広域交流と連携を支える幹線交通網の整備促進
	13	豊かな子ども時代を過ごすための社会づくり		33	安全で快適な都市基盤整備の推進
	14	次代を担う心身ともにたくましい人づくり		34	水の安定供給と水資源の保全
	15	子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり		35	公共施設等の効率的な維持管理
環境・人権	16	生活環境の保全と自然保護の推進			
	17	資源循環型社会の構築			
	18	市民生活の安全・安心への取り組み			
	19	家庭や地域社会における男女共同参画の促進			
	20	人権が尊重される明るいまちづくり			

質問は以上です。本アンケート用紙はワークショップ終了後、回収させていただきます。